

2. 将来の HIV 感染リスク認知(表 22)

高校2年生に、「将来、交際中に自分が HIV に感染する可能性があると思うか?」を尋ねた。「まったくないと思う」、「あまりないと思う」、「ありそうだと思う」、「かなりあると思う」、「わからない」の5段階で、介入前後の自分自身の将来の HIV 感染に対するリスク認知の変化を調べた。「ありそうだと思う」+「かなりあると思う」と答えた人を『リスク認知群』として合計割合(%)を、介入前後で、性別・介入群別に示した(表 22)。

まず、非介入群(I)では、『リスク認知群』は男子で0.2%の上昇、女子で4%減少で、非介入群(II)では、『リスク認知群』は男子で5%の上昇、女子で0.6%上昇であり、非介入群では HIV リスク認知に関して変化は観察されなかった。それに対し、介入群での変化は、フル介入(IV)では、男子7%上昇、女子10%の顕著な増加が観察された。一方、中間介入群(III)でも、男子9%、女子12%と男女ともに10%近くのリスク認知の顕著な増加が観察された。

以上をまとめると、本プロジェクトの予防教育により、STI 感染のリスク認知の向上と同じく、将来の自分自身の HIV 感染に対するリスク認知が大幅に上昇することが示された。

男女で、I群(非介入群:2004年度)の『リスク認知群』の値を、III群、IV群(介入群)の値の分布と t 検定で比較すると、男女とも統計学的に有意であった(男女とも: $P < 0.001$)。

表 22. 自分が HIV にかかる可能性があると思うか?

			かなりある+ありそうだ		
			人数	(%)	
I 非介入群: (2004年度)	男子 6校	事前	391	104	26.6
		事後	380	102	26.8
		差			0.2
	女子 6校	事前	623	213	34.2
		事後	604	183	30.3
		差			-3.9
II 非介入群:	男子 2校	事前	197	47	23.9
		事後	186	54	29.0
		差			5.1
	女子 2校	事前	113	27	23.9
		事後	110	27	24.5
		差			0.6
III 中間介入群:	男子 20校	事前	1424	281	19.7
		事後	1364	392	28.7
		差			9.0
	女子 20校	事前	1930	308	16.0
		事後	1882	518	27.5
		差			11.6
IVフル介入群: 2008年	男子 30校	事前	2872	584	20.3
		事後	2784	768	27.6
		差			7.3
	女子 32校	事前	3592	664	18.5
		事後	3489	997	28.6
		差			10.1

(4) 性行動の変化—性経験率とコンドーム使用率

1. 性経験率

◆中学3年生(表 23)

本介入により中学生の性行動が活発化したかどうかを調べるために介入前後の性経験率(生涯の性経験の割合)を比較した。性経験率を介入前後で性別・介入群別に表 23 に示した。それによると、非介入群(I)では、男子3%、女子1%の性経験率の上昇が見られ、介入群では、IV群では男女とも1%程度の上昇、III群でも男子で2%未満、女子2%の上昇で、II群でも、男子1%程度の増加、女子3%の減少(注:対象者のサンプル数が少数のため、事前調査では性関係の意味を誤解し、性経験者としてカウントされていた生徒が、事後調査では誤解による回答者が減り、生涯性経験者が減少したという矛盾した結果になっている可能性もある)で、全体としては非介入群、介入群どちらも数%経験率が上昇したが、介入群と非介入群との差異は認められず、これまで同様、本プロジェクトの予防介入により中学生の性行動は活発化していないことが再確認された。

表 23. 中学生の性経験率

			総数	人数	(%)
I 非介入群 (2004年度)	男子 22校	事前	1358	83	6.1
		事後	1350	125	9.3
		差		42	3.2
	女子 22校	事前	1211	59	4.9
		事後	1193	74	6.2
		差		15	1.3
II 不完全介入群	男子 4校	事前	207	11	5.3
		事後	195	13	6.7
		差		2	1.4
	女子 4校	事前	193	21	10.9
		事後	181	14	7.7
		差		-7	-3.2
III 中間介入群	男子 42校	事前	2545	98	3.9
		事後	2506	142	5.7
		差		44	1.8
	女子 42校	事前	2481	99	4.0
		事後	2473	141	5.7
		差		42	1.7
IV フル介入群	男子 51校	事前	3188	101	3.2
		事後	3121	137	4.4
		差		36	1.2
	女子 51校	事前	3059	125	4.1
		事後	3022	161	5.3
		差		36	1.2

◆高校2年生(表 24)

本介入により高校生の性行動が活発化したかどうかを調べるために介入前後の性経験率を比較した。性経験率を介入前後で性別・介入群別に表 24 に示した。それによると、非介入群 (I) では、男子 4%、女子 2% の性経験率の上昇が見られ、非介入群 (II) では男子 2%、女子 7% (注: サンプル数が少数のため結果の解釈には注意を要する) の上昇が観察された。介入群では、IV 群では男子 3%、女子 4% の増加、III 群では男女とも 3% 前後の増加で、非介入群、介入群どちらも数% 経験率が上昇したが、介入群と非介入群と間に統計学的に有意の差異は認められず、これまで同様、本プロジェクトの予防介入により高校生の性行動は活発化していないことが再確認された。

表 24. 高校 2 年生の性経験率

			総数	人数	(%)
I 非介入群:	男子 6 校	事前	391	66	16.9
		事後	380	80	21.1
		差			4.2
	女子 6 校	事前	623	156	25.0
		事後	604	165	27.3
		差			2.3
II 非介入群:	男子 2 校	事前	197	33	16.8
		事後	186	35	18.8
		差			2.0
	女子 2 校	事前	113	34	30.1
		事後	110	41	37.3
		差			7.2
III 中間介入群:	男子 20 校	事前	1424	237	16.6
		事後	1364	260	19.1
		差			2.5
	女子 20 校	事前	1930	391	20.3
		事後	1882	444	23.6
		差			3.3
IV フル介入群:	男子 30 校	事前	2872	408	14.2
		事後	2784	465	16.7
		差		57	2.5
	女子 32 校	事前	3592	636	17.7
		事後	3486	743	21.3
		差		107	3.6

2. コンドーム使用率

◆中学3年生(表25)

介入により中学生の予防行動が促進されたかどうかを調べるために、介入前後のコンドーム使用率を比較した。一番最近のコンドーム使用率を介入前後で性別・介入群別に表25に示した。

(注：これまではコンドーム使用状況に関しては「過去3ヶ月のコンドーム使用状況」を尋ねていたが、授業実施時期により、過去3ヶ月という期間では介入前も含まれてしまい、介入効果が適切に測定されていなかったため、2006度から一番最近のコンドームの使用率を尋ねる形式に変更した。)

上記の理由により、今年度は非介入群には過去3ヶ月の毎回使用者で代用した。非介入群(I)では、介入の前後で、男子8%、女子10%と男女ともコンドーム使用率の大幅な低下が観察された。それに対し、介入群では、フル介入群(IV)では、男子は9%、女子8%と男女とも10近くの使用率の大幅上昇が認められたが、中間介入群(III)では、使用率は男子3%、女子2%の上昇にとどまった。一方、不完全介入群(II)では、男子が36%、女子が12%の使用率の大幅増加が見られたが、II群のサンプル数が少数のため、わずかな人数の変動が全体の結果に大きな影響を与えるため、結果の解釈は慎重に行う必要がある。以上をまとめると、教育前のコンドーム使用率が50%前後の比較的使用率の低い中学生群では、今回のWYSH教育は予防行動(コンドーム使用促進)の変容に効果がある可能性が示唆された。

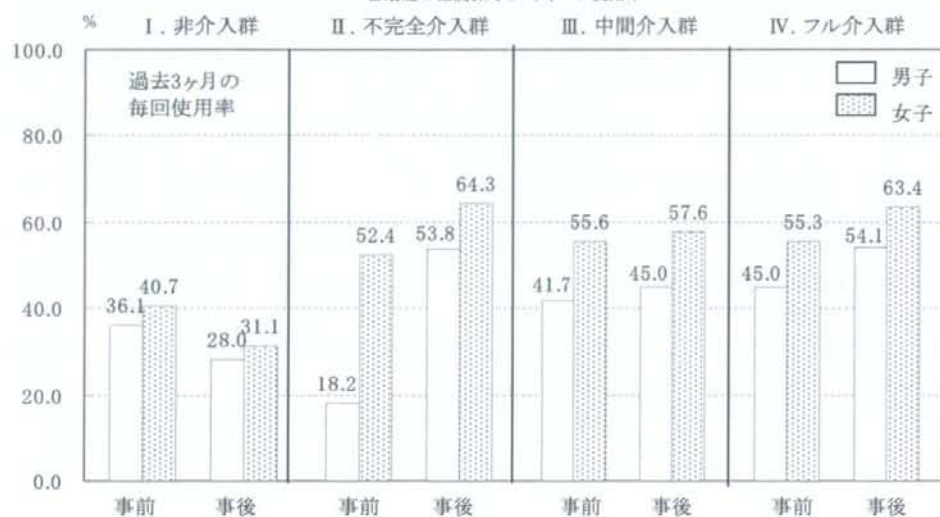
表25. 中学生の一番最近の性関係でのコンドーム使用率*

	性別	性経験者	使った		
			人数	(%)	
I 非介入群 (2004年度)	男子 22校	事前	83	30	36.1
		事後	125	35	28.0
		差			-8.1
	女子 22校	事前	59	24	40.7
		事後	74	23	31.1
		差			-9.6
II 不完全介入群	男子 4校	事前	11	2	18.2
		事後	13	7	53.8
		差	2	5	35.7
	女子 4校	事前	21	11	52.4
		事後	14	9	64.3
		差	-7	-2	11.9
III 中間介入群	男子 42校	事前	96	40	41.7
		事後	140	63	45.0
		差	44	23	3.3
	女子 42校	事前	99	55	55.6
		事後	139	80	57.6
		差	40	25	2.0
IV フル介入群	男子 51校	事前	100	45	45.0
		事後	135	73	54.1
		差	35	28	9.1
	女子 51校	事前	123	68	55.3
		事後	161	102	63.4
		差	38	34	8.1

*非介入群(2004年度)は過去3ヶ月の毎回使用者の割合

図24. コンドーム使用率

一番最近の性関係でのコンドーム使用率



◆高校2年生(表 26)

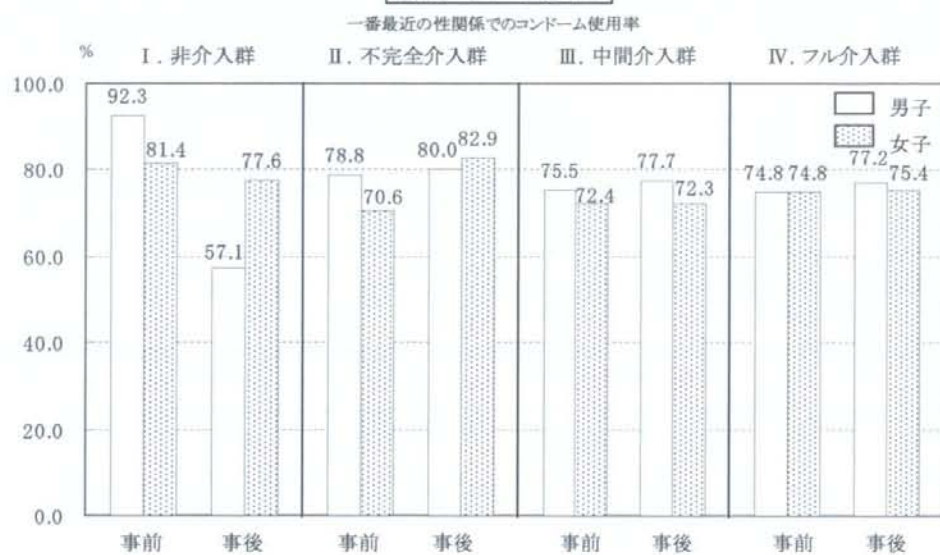
介入により高校生の予防行動が促進されたかどうかを調べるために、介入前後のコンドーム使用率を比較した。一番最近のコンドーム使用率を介入前後で性別・介入群別に表 26 に示した。

(注：これまではコンドーム使用状況に関しては「過去3ヶ月のコンドーム使用状況」を尋ねていたが、授業実施時期により、過去3ヶ月という期間では介入前も含まれてしまい、介入効果が適切に測定されていなかったため、2006 年から一番最近のコンドームの使用率を尋ねる形式に変更した。そのため、コンドーム使用率に関してだけはI群には従来の比較群を用いず、学校数は極めて少ないが2006年度の授業不備群を非介入群として代用した。) その結果、コンドーム使用率は非介入群(I)では男子で35%減少、女子で4%減少と男女ともコンドーム使用率が減少し、非介入群(II)では男子1%、女子12%の増加とサンプル数が極めて少数のため、結果が安定しなかった。それに対し、介入群では、II群では、男子は2%、女子0.6%上昇と男女ともほとんど変化が観察されず、さらに、III群の中間介入群でも、男子2%上昇、女子0.1%減少で、同様に変化は観察されなかった。以上をまとめると、集団指導の介入により高校生では中学生のような顕著な予防効果(コンドーム使用促進効果)は観察されなかった。但し、高校生では、教育前のコンドーム使用率がI群では、男子92%、女子81%、II群で男子79%、女子71%、III群で、男子76%、女子72%、IV群で、男子75%、女子75%と、中学生とは異なり、極めて高率であったため、シーリング効果の可能性もあると考えられる。本プロジェクトの介入は、教育前の使用率の低い対象者には比較的效果がある可能性があるが、教育前使用率の高い集団には、教育前使用状況の維持にとどまり、集団指導だけにとどまらない別のアプローチが必要であることが示唆された。

表 26. 高校生の一番最近の性関係でのコンドーム使用率*

			使った		
			性経験者	人数	(%)
I 非介入群： (2006 年度) 授業不備校	男子	事前	13	12	92.3
		事後	14	8	57.1
		差			-35.2
	女子	事前	70	57	81.4
		事後	76	59	77.6
		差			-3.8
II 非介入群： (2008 年度)	男子 2校	事前	33	26	78.8
		事後	35	28	80.0
		差			1.2
	女子 2校	事前	34	24	70.6
		事後	41	34	82.9
		差			12.3
III 中間介入群：	男子 20校	事前	237	179	75.5
		事後	260	202	77.7
		差			2.2
	女子 20校	事前	391	283	72.4
		事後	444	321	72.3
		差			-0.1
IV フル介入群：	男子 30校	事前	408	305	74.8
		事後	465	359	77.2
		差			2.4
	女子 32校	事前	636	476	74.8
		事後	743	560	75.4
		差			0.6

図25. コンドーム使用率



(5) WYSH 教育を実施した教師の感想（自由記載）

WYSH プロジェクトに参加し WYSH 教育を実施した先生方に対し WYSH 教育を行って「良かった点」「困った点」を尋ねた（自由記載）。これらの自由記載の質的データの帰納的内容分析を行った。但し時間的な制約から、今回は初期段階の分析結果の概要のみを掲載するにとどめる。

◆中学3年生に対する WYSH 教育実施のコメント

2008 年度の WYSH プロジェクトへの参加中学校は 101 校で、授業実施状況に関するアンケートの回答率は 100%であった。

1. 良かった点

1-1 教師にとって良かった点

① 自主制作の教材（メッセージビデオ）が効果的であった（21 校：20.8%）

代表例：メッセージビデオや授業最後の担任からの言葉など生徒の心を打つものがあった。（生徒の感想より）/メッセージビデオでは「幼い頃の誰かと何かをしている写真」を集めてビデオにしたことで「私たちはいろいろな人に支えられて生きているんだと思えた」という感想があった。/・手紙やビデオに感動してくれた。/最後の生きることを考える映像が特に良かったです。/・自作のメッセージ DVD「人と人とのつながり」の映像教材が効果的であった。/2時間目の授業で生き方の人生のサイクル、人とのかかわり、コミュニケーションの大切さ 命など スライドやビデオを入れながらそこそこのものは出来、生徒もそれなりに感動をしてくれたようです。/・オリジナルメッセージビデオは、昨年以上に学校生活に関する写真や学年所属の先生方の写真、生徒の作品をいれて構成したので、生徒の心に深くせまった。多くの人に支えられて生きてきたことを思い返し、これからも温かい人間関係を大切にしたいという思いを強く持つことができた。/メッセージビデオはどの生徒にも気持ちが伝えられ、感動したという声が多く、時間をかけて作ってよかった。/・ビデオやメッセージで、今までの自分を振り返るいい機会になった。/・メッセージビデオは生徒たちがとても感動してくれクラスによってはもう一度見せて欲しいという要望があった/・メッセージビデオでは、先生の伝えたいことが伝わったよと多くの生徒が感想に書いてくれた。/メッセージビデオにも”泣きそうや”という声が上がりに心に響くものはあったと思われる。/・メッセージビデオ等授業のために準備したことが生徒に伝わり、距離感が縮まったことが良かった。/・本校の生徒は自己肯定感が低い子が多いので VTR はとてもよかった。視聴した後の反応がよかった（涙を流している生徒もいた）/ ●主要講義の真剣なまなざし、グループワークではにかむ笑顔、はじける笑顔、メッセージビデオを見ているときのキラキラした顔、そんな生徒の姿を目の当たりにし、生徒一人一人が掛け替えのない存在であることを、私自身が実感することが出来ました。/グループワークで考えたり発表したりしている時の生徒の笑顔や、メッセージ映像を見ている生徒の表情は、最高によかったです。/最後の生きることを考える映像が特に良かったです。/・ビデオやメッセージで、今までの自分を振り返るいい機会になった。/人と人とのつながりビデオは2回も見せたほど、感動の涙でした。/最後の DVD のメッセージを生徒が楽しんでた。/・「生きること」を考える映像が、生徒の反応をみても、後からの感想をみてもよかったと思います。

② 性教育にとどまらない効果（15 校：14.9%）

代表例：●卒業前、義務教育最後の性教育は、専門家による講演会が中心でした。費用の捻出や、講演内容についての調整など、毎年困難していました。養護教諭として、生徒にできることがあるはずだと探しつついていたとき、WYSHに出会いました。養護教諭

と生徒の一番身近にいる学年教師が一丸となることができるWYSH教育は、生徒の心に響き、性を生きるために必要なことと前向きにとらえることのできる、大変貴重な時間となりました。専門家のお話も有意義だとは思いますが、義務教育まよめの性教育としてWYSH教育は十分活用できると思えました。/・性教育とは、心の教育でもあることが伝えられたこと。/ 性感染症の怖さや、相手を思いやる心、命の大切さなどを生徒たちは、感じとってくれたと思う。/ 教師が普段と違う感じで授業に臨んで、「性教育＝生教育」を行うと、子どもたちの心にも何かが伝わるように思う。授業後の感想を読んでも、HIVや感染症のことだけでなく、人と人のつながりや大切さについて感じとってくれた子どもも多くいた。やはり、中学3年生にこういったことを話して考えさせる時間は大事だと思う。/ひとことで言うと、非常に中身のつまった、生徒たちにとって良い授業であったと思えます。人間関係の構築が性感染症の予防につながるということ、うまく伝えることができたし、生徒たちも納得していたように思います。/生徒は自分一人では生きていけないこと、仲間の大切さなどを、とても深く感じていた。/友達の大切さを実感していた。/・良い意味で生徒の抱く「性教育」のイメージを裏切ることができた。「わかる」と「感じる」の2点に授業のポイントを絞ってゲームを多用しノリよく明るく進めたので、生徒は心を開いて正直にしかも感情豊かに反応していた。/人間関係の築きの大切さをあわせて教えることで本当に生徒がもっている「自分にとって大切な人と性関係をもちたい」という優しくあたたかい本当の気持ち(性情報に振り回されない)をうまく引き出していける点がとてもすばらしい。(養教)・性感染症、中絶、等若者の抱える問題を取り上げながらも、必ずしもマイナスのイメージで性行為をとらえるのではなく、人間関係をじっくりつくることで互いを知り、知識と思いやりが大切であると前向きな面から学べる。(担任)/WYSH教育では、生徒に自己肯定感を与え性教育に留まらない効果があると思えます。/ただの性教育で終わるのではなく、人生とは人としてどう生きていくことが幸せなのか。夢をもつことの大事さ、そのために自分も相手を大切にすることが伝えられる授業になったと思えます。/・自分の将来について考える時間があり、希望や不安を感じながら自分のことを考える事ができた。/・知識のみでなく、感動や揺さぶりを生徒及び教員にもたらす事ができた。/自分の性を受けとめ、前向きに生きようとする生徒がふえた。自分の存在の大切さ、まわりで支えてくれる人への感謝がめばえた。/・生徒が将来のことを考える良いきっかけになった。・将来のために、今どうすべきか、この時間の中では考えることが出来ていた。

③ 教材が使いやすい・授業がやりやすい (13校 : 12.9%)

代表例：・パワーポイントを使うと、説明しながら視覚でも情報を伝えることができ、また生徒も興味を持って授業に参加していた。・HIVについて、世界だけでなく、日本、自分の県の実態を知ることで他人事ではなく、自分の事として考えることができた。・グラフやデータを見せる事で、増えている実態や危機的な状態にあることが伝わりやすかった。/・性に関する指導が事実上制限される流れの中でWYSHは大変取り組みやすい内容で構成されている。教材も制限され、今まで使っていたものが使えなくなってきたので、主要講義のDVDはデータも新しく大変良かった。/・優れた教材を使用させていただくことができ、わかりやすかったという生徒の意見が多い。理解を促進できた。/木原先生からいただいたCDやビデオを使って授業を第1回目したのは大変教えやすかったです。/・教材が使いやすく授業がやりやすい。(パワーポイント、ビデオ、小冊子等)・プロジェクトに基づく授業であり、授業の評価ができる。/・パワーポイント「本当のことを知っていますか？」とビデオ教材「みんなで考えよう クラミジア」の内容は簡潔で、生徒は食い入るように見ている。導入の〇×クイズ5問について、パワーポイント等で補足説明できたので、自分のこととして考えるという点と知識の確認という点で非常に効果的だった。

クラミジアのビデオでは、特に「症状がなかったんですよ。」という体験談は、生徒にダイレクトに伝わったと思う。/主要講義のプレゼンで、「性行為」等の言葉が出てきたが、子どもたちがそこに集中してしまうことなく、人間関係の大切さや、自分を大切にしていこうと思えるようなことを、感動に似たものから、得られていたので、大変良かったです。性行為を詳しく説明しなくても通すことができる授業なので、大変やりやすかったです。/・事務局からいただいた教材で狭義の性教育の知識を与えることに安心感があり、授業の流れはスムーズだった。/・パワーポイントが使いやすく、分かりやすかった。・データが新しく、また新たに知ることが多く、心に残ったと思う。/☆知識提供型の1時間目の授業に関してパワーポイントやビデオの資料の内容がすばらしいので理解しやすい/・WYSH教材のパワーポイント、ビデオは分かりやすくまとめられて使いやすかった。・教材ポスターも3年トイレに貼り有効であった。/・主要講義では、初めは、ざわついていたが、空気がかわってシーンとなりました。すばらしい教材をつかわせていただいたと思います。/・パワーポイント教材は、意図を持って作成されているので、わかりやすく、生徒の心に響くものとなった。

④ 協体制が得られた(作れた)(12校:11.9%)

代表例:・各クラス単位と全体で(担任と養護教諭)体育館で養護教諭からエイズについて講義をした。全体で3時間取れたことは、校長学年主任、各教員の先生の理解ができたことはよかった。/・本校での性教育の活性化につながり、教師間の連携にもつながりました。/外部講師に依頼するのではなく、教師が指導することについて、学校全体の理解と協力が得られた。/・事前アンケートの項目、集計、分析が全国データとの比較と言う形で返していただいたので、それをもとに職員会や学年会で具体的に提案でき協力を得やすかった。・管理職や学校保健安全委員会のメンバー(保健師、校区の小学校養護教諭等)他校の養護教諭、市委員の指導主事に参加してもらい、WYSH教育への理解を深めてもらえた。/・性教育をひとりでやっていたと感じた昨年までと違い、3学年を中心に学校全体に広がり、多くの職員と共有できた。/担任に向けての模擬授業を校内研修で全員に向けて行えたこと。これで学校全体の理解が深まりました。/・養教と共に学ぶことでいつもと違う雰囲気の中、学習に向かえた点(担任)/内容が内容だけに、担任(自分)だけの授業だと、やりにくい部分もあるが、T1を養護、T2を担当としたことで、生徒も自分も安心感が持て授業に臨むことができていた。/TTと行えたことも良かったです。/・ポスターは職員トイレにも貼って職員の関心をひいたので、職員室での話題づくりのきっかけになった。/●担任によっては「性教育は苦手」という方もいたが、「主要講義をはじめ主導権は養護教諭」、「グループワークは担任」と、役割分担をすることによって、抵抗感なく進めることができた。/・準備から、授業、後片付けと、学年部全員で作らあげ、協力することができた。

⑤ 教師の意識・知識向上(10校:9.9%)

代表例:・アンケート結果に基づいて指導案を立てたが、(自尊感情を高める→性行動の抑制効果という流れは難しかった)他の職員に大変参考になるデータとなった/・他の先生方も興味関心を持って見守って下さった。クラミジアのビデオを見て「私たちも知らないことが沢山あるね」と言っておられた。/・本年度で連続3回目となり、WYSH教育が定着してきている点。職員の性教育の捉え方が少しずつ変容してきている。/・性教育について私自身勉強になった/・きちんとした性感染症、エイズに関するデータと教材を入手できた。研修で勉強させてもらえてよかった。・生徒の発達段階に応じた性教育を行うという視点で授業改善に取り組むことが出来た。/・教師の意識・知識が向上する。/・昨年

は初めてだったので準備が大変だったが、今年は、改善を加えるなど、昨年より更にはいい指導につなげることができた。/・今後の方向性も示され次年度につながるものとなった。/・心をゆさぶるような指導事例を紹介してもらい、それを3学期の授業につなげていくことになり、喜んでます。/・授業の流れが、ずれた時、注意すると、きちんと、修正していく、教師の力量が、わかり、互いに、高め合っていくのを感じた。

⑥ 教師にとってもやりがいがあった(6校:5.9%)

代表例：・将来に夢を持って生きることについて生徒の夢がどの子にもあって、将来像が「幸せであること」が確認できた。今乱れた生活をしている子でも「笑顔のある家庭を作りたい」「あたたかい家庭」などと記述してあり、教師としてうれしい思いをした。/授業が終わった後の生徒の笑顔を見て自分も胸が熱くなった。2年目ということに心にとりがあるかと思ったが、やっぱり毎時間緊張した。しかし、授業が始まり、生徒の反応がいいとだんだん自分ものってくるのが分かり楽しかった。生徒への「言葉かけ、指示」で生徒の気持ちも変わるので大事だなと思った。「性」について抵抗感の生徒がこの授業を受けて、素直に受け入れることができるようになったと感想に書いてくれたので、本当に良かったと思った。/・予想以上に生徒は真剣に授業を受けていた。感想もしっかり書いてくれて、うれしかった。/・科学的データと研修会で学んだことが自信となり思いを込めて、授業ができた。・生徒から、内容が内容なのに、なんだか楽しい授業でよかったよと言われました。/●主要講義の真剣なまなざし、グループワークではにかむ笑顔、はじける笑顔、メッセージビデオを見ているときのキラキラした顔、そんな生徒の姿を目の当たりにし、生徒一人一人が掛け替えのない存在であることを、私自身が実感することが出来ました。/・生徒からももらった感想にとっても勇気づけられた。実施してよかったと思った

⑦ アンケートにより生徒の実態を把握できる(5校:5.0%)

代表例：・アンケートを行うことで生徒の実態がよく分かるので授業を組み立てやすい行動変容を見ていくポイントになるのでとても重要だと思った生徒のレディネスニーズを考えない授業は授業ではない/・アンケートを通して本校の実態を知ることが出来性に関する教育の必要性を改めて感じ職員にも説得力を持って伝えることが出来た。/・アンケートにより子供の実態を把握したうえで授業をできた。/・アンケート実施により、集団の実態把握と全国比が可能となり、科学的な検証に基づく教育に近づくことができつつある。推測と生徒の示す実態との差異に驚くこともあり、対象の捉え直しにもなる。/・生徒の実態に合った内容であるため、その後の個別指導にもつながる。

⑧ 生徒との距離が縮まった(4校:4.0%)

代表例：・生徒との会話がフランクになった。・生徒の力を信じるできるようになった。/・大人(先生達)も悩みながら、決断しながら現在に至っていることが生徒に伝わった。/・メッセージビデオ等授業のために準備したことが生徒に伝わり、距離感が縮まったことが良かった。/・「WYSH」という言葉がはまりました。(芸能人 DAIGO のウィッシュの影響もあって) そのおかげで、個別の話をする機会がふえました。

1-2 生徒にとって良かった点

① 生徒が受け入れやすい(分かりやすい)授業(17校:16.8%)

代表例：生徒も興味を持って授業に参加していた。/・子供たちにとってわかりやすい内容だった。/・昨年度よりも準備も要領よくできた。今年の子供たちはグループワークが活発にできてグループで話し合うことがとても楽しいと感想に書いていたし、本当に楽しそうに話し合いをしていました。/・全員ではないが真剣に授業を受けた。/・グループワークを行うことで生徒間の関係が深まり、共通理解が出来た・本校の生徒は自己肯定感が

低い子が多いのでVTRはとてもよかった。視聴した後の反応がよかった(涙を流している生徒もいた)/男女混合で行ったがお互いに遠慮することなくグループワーク等が行われ大変良かった。友達の大切さを実感していた。/生徒も映像をみて理解が深まったと思います。/・ぬいぐるみなどの、明るくほっとする雰囲気を出せるグッズは、男女を問わず予想以上に生徒の感情を和ませる効果があった。特にぬいぐるみは、大好評であった。/●主要講義の真剣なまなざし、グループワークではにかむ笑顔、はじける笑顔、メッセージビデオを見ているときのキラキラした顔、そんな生徒の姿を目の当たりにし、生徒一人一人が掛け替えのない存在であることを、私自身が実感することが出来ました。/グループワークで考えたり発表したりしている時の生徒の笑顔や、メッセージ映像を見ている生徒の表情は、最高によかったです。/・生徒達に、いろんな考え方を出していいんだという開放感があり、和やかな雰囲気であらう交流できた。/クラスが明るい雰囲気の中で実施できた。/・〇×クイズをしたことで、気楽な雰囲気であらう講義がきけたという。感想があり、よかったと思います。/主要講義のプレゼンで、「性行為」等の言葉が出てきたが、子どもたちがそこに集中してしまうことなく、人間関係の大切さや、自分を大切にしていこうと思えるようなことを、感動に似たものから、得られていたのでは、大変良かったです。/・予想以上に生徒は真剣に授業を受けていた。感想もしっかり書いてくれて、うれしかった。/・テーブルに花を置きいつもとは違う雰囲気でグループの様子は明るくいい感じだった。/生徒が真剣に授業にとりくんで、今まで知らなかったことを学んだり、これからどうしていけばいいかを考えるきっかけになった

②グループワーク(生徒同士の話し合いの場)が効果的であった(16校:15.8%)

代表例:グループワークでは活発な意見交換がなされ満面の笑顔で授業が進められていたのが印象的だった。/グループワークでは、他の人がどう思っているかわかって良かったという感想も多く、あまり、こういうデリケートなことで話す機会がないのでまわりの子が見えてきて良かったようすだった。/生徒はふだんなかなか話題にしにくいことについて、でも興味のあることについて話し合いや異性の思いを聞くことができ、その中で自分の考えや視野を広げ、前向きに生きていくことに意欲を持つことができた。/自分の夢(～になりたい、～したい)を考え、又お互いにそれぞれの夢を知ることが出来た/・話し合い活動を通して、様々な意見を聞き、価値観のちがいや、男女の考え方の違いがわかって良かった。/・いろいろな意見、ちがう意見がきけてよかったという感想も多かった。/また今年グループワークを実施したことも“良かった”と感じた子どもも多く、同年齢の同性異性の考えを話しさせて、どんなことを感じ考えているのかを発表させたことも良かったと思う。/・グループワークをすることで、友達や考えや価値観の相違にも気付けたようだった。/・課題提供型教育としてのグループワークの意義を校内へ伝えることができた。/・グループワークは、生徒同志が話し合い、より好ましい男女交際を考える場となった。教師主導ではなく、押しつけでもなく、生徒主体の授業となった。/●主要講義の真剣なまなざし、グループワークではにかむ笑顔、はじける笑顔、メッセージビデオを見ているときのキラキラした顔、そんな生徒の姿を目の当たりにし、生徒一人一人が掛け替えのない存在であることを、私自身が実感することが出来ました/男女混合で行ったがお互いに遠慮することなくグループワーク等が行われ大変良かった。/話し合いをしている時の表情が明るく楽しそうであった。/・グループワークを行うことで生徒間の関係が深まり、共通理解が出来た/今年の子供たちはグループワークが活発にできてグループで話し合うことがとても楽しいと感じて書いていたし、本当に楽しそうに話し合いをしていました。/高校生の“性関係をかまわないと思っている生徒の意見”への反感と”性関係は持ちたくないと思っている生徒の意見”への賛同が明確に伝わりクラス全体が共感していることが分かった。その後行った”どんな人になりたいか”という質問に対し”責任感のある人、

思いやりのある人、自分を持っている人、前向きな人、、、等々”建設的な意見が素直に出た。又話し合いをしている時の表情が明るく楽しそうで良かった。/・グループ討議した時、自分達の本当に興味あること(携帯・恋)のことで交流できた。・グループ討議の時、活発に発言していた。

② 生徒の意識・知識の向上(15校:14.9%)

代表例:何とんでも生徒の反応が良かったことです。・「ふだん見ている友達の笑顔がとてもきれいに見えた」・「まじ感動した」・『好きやから』とかそういう軽い想いで行動したらあかんって分かりました」・「みんなのちがう意見が聞けてよかったです」・・・多数・「今、つき合っていないからってあせる必要はないということがわかった」・「この授業を通して自分を大切にしないといけないと思った」など等の感想文でした。/他人事ととらえていた生徒が自分の問題として考えられた。全体的に生徒達の表情がよく、いい雰囲気でした。/自分の命や自分にも性感染症やエイズも身近な問題としてみんな感じて真剣に考えてくれました。/・優れた教材を使用させていただくことができ、わかりやすかったという生徒の意見が多い。理解を促進できた。/生徒が今まで性関係に関わるマイナス面を知らない者が多く知識として持てることができた。これから先の自分を大切にしようと思ってくれた。/●「性は自分にも関係あることだと、初めて思った。」「将来役に立つときがくるだろうから、真剣に考えていきたい。」などの感想が寄せられ、「性」を自分のこととして捉えた生徒が多くいた。●時期的に進路決定に直面し、漠然とした不安を抱えている生徒が多かったため、具体的に自分の将来をイメージしたことにより、自分を大切に、今を大事に前向きに生きていこうと捉えた生徒が多くいた。/自分の性を受けとめ、前向きに生きようとする生徒がふえた。/より深く知識を身につけることが出来この先、生きて行くうえで生きる力を養えたような気がします。/・性感染症についての知識を再確認できた。/・生徒の意識に働きかける内容で、改めて自分や仲間を見つめ直す機会となった。/自分の夢(～になりたい、～したい)を考え、又お互いにそれぞれの夢を知ることが出来た。(尊重する)自分と同じような考えや思いがあることにも気づけたのではないだろうか?夢を大切し又それを実現するかどうかは自分にかかってくることに気づけた生徒もいるようである。/・HIVについて、世界だけでなく、日本、自分の県の実態を知ることで他人事ではなく、自分の事として考えることができた。/主要講義では生徒は真剣に話を聞いておりエイズを含めた性感染症が他人事ではなく、自分の身近な問題として、しっかりと捉えることが出来た。/本年度2度目の実施であったため主要講義の振り返りも含めた授業を行ったがエイズの拡大については生徒の反応は大きく社会的な視野で問題点を考えていた/・生徒の心が開放され素直に自分を見つめたり、周りの仲間や教師と共に生きていることを実感した点(担任)

③ 積極的に参加できる(9校:8.9%)

代表例:・昨年度よりも準備も要領よくできた。今年の子供たちはグループワークが活発にできてグループで話し合うことがとても楽しいと感想に書いていたし、本当に楽しそうに話し合いをしていました。・世界にひとつだけの花を踊った前と後ではグループワークへの取り組み方が変わり、和やかなムードでできた。・音楽(オルゴール)があるのとないのとではとても雰囲気が違った。・感想でも2時間とても楽しかったと書いてくれたし、人と人のつながりビデオは2回も見せたほど、感動の涙でした。卒業に向けておちついて生活できるようになるのではないかと思います。/・生徒が熱心に参加していた/・一生懸命取り組んでいる姿が、伝わってきた。・興味ある話では、静かになり、思いがあればつぶやき、自己開示が自然とできていた。・ロールプレイでは、一人の生徒も、相手が必ず必要となり、二人ペアで声を出し、参加していた。・感想は、すべて、肯定的授業という印象であった。/生徒が熱心に活動していた。/・いつも授業におくれ、反抗的な生徒が、

2コマ目の開始時にいたり、みんなと同じように片づけをしてびっくりしました。あたり前のことなのですが、いつもひどいです。/・グループワークは、生徒同士が話し合い、より好ましい男女交際を考える場となった。教師主導ではなく、押しつけでもなく、生徒主体の授業となった。/ 外部から講師を招いて話を聞くというのではなく、身近な教師が授業をしたことで、生徒の感じ方もずいぶん違ったと思う。ふだんの授業では意見を言うことなく、授業に消極的な生徒も、この授業では積極的に話し合いに参加していた点は良かったと思う。/全体的に生徒達の表情がよく、いい雰囲気でした。他教科に比べるとよく挙手し、発表していた。/・全員、下を向かずに、笑顔で授業に参加できていた。

④ 身近で具体的なデータでわかりやすい(7校:6.9%)

代表例：・HIVについて、世界だけでなく、日本、自分の県の実態を知ることで他人事ではなく、自分の事として考えることができた。・グラフやデータを見せる事で、増えている実態や危機的な状態にあることが伝わりやすかった。/主要講義では生徒は真剣に話を聞いておりエイズを含めた性感染症が他人事ではなく、自分の身近な問題として、しっかりと捉えることが出来た。/本年度2度目の実施であったため主要講義の振り返りも含めた授業を行ったがエイズの拡大については生徒の反応は大きく社会的な視野で問題点を考えていた。/・身近で具体的なデータ、正しい知識、最新の情報を知ることができる。/・「自分らには関係ねーわ」のポスター、授業終了後に渡すリーフレットなどは、学校ではとても作れない本格的な物で、そこに岐阜県の方言とデータが掲載されているので、生徒は「他人事ではない」という気持ちとどんな話が聞けるのかという関心を抱いて授業に向かえた。/・データが新しく、また新たに知ることも多く、心に残ったと思う。/本校は知識が非常になかったので、1時間目の授業で現状や危機がわかってもらえた。

⑤ 男女別授業の利点(2校:2.0%)

代表例：男女別で行ったことにより、普段余り自分をだせない生徒が異性がないことにより素直に発言できたこと。/男女別で行なったことで、意見をだしやすい雰囲気を作ることができた。

2. 困った点

① 授業時間・場所の確保(25校:24.8%)

代表例：・年間計画にはなかった「ドイツ留学生35人の受け入れ」が10月にあり、歓迎セレモニーの準備や合同授業の実施などで、総合学習の時間や学級活動、道徳の授業がつぶれ、そのしわよせもあり、12月までに実施できない状況になったところ、なんとか1時間だけ確保したというような状態で、グループワークが実施できなかった。・次回予定が1月以降なので時間があきすぎることが不安である。/・年間計画でWYSH授業を2時間しか確保できていなかった。授業計画をするなかで、あれもこれも生徒に伝えたいと思ったが、時間に余裕がない授業となってしまった。/一番難しいのが、授業時間の確保。2週間で全クラス終えたいと思ったが、4週間かかってしまった。授業内容を他クラスに言わないように口止めた。その分まだ実施していないクラスは楽しみにしてくれたようだ。/・進路指導の時期なので、授業時間を確保するのが大変だった。/・授業時間と授業場所の確保。/保健の授業時間と抱き合わせて行なったため、時間が不足し教えるのにしんどかったです。/◆年間計画に入れていなかったもので、時間の確保が難しかった。(来年度からは、年間計画に入れて、学年主体で行なえるように計画中) /・2学期は、体育祭、合唱文化祭、内申委員会など、進路に向っての時期であり、行事の合間をぬっての2コマだった。/時間が足りず苦しかった。パワーポイントを使つての授業が1時間なのは短いと感じた/・内容が充実しているので、2時間におさめるのに苦労しました。・理科室を使

ったので、(暗幕の関係)におい(実験室の)が気になりました。/・3年生対象となるので、11月末から12月に実施となると、時間確保が難しく、もっといろいろなことでも思いつきながらも、なかなかその確保に苦労しました。/場所を変えたり、テーブルクロスをしたりすると興奮して落ち着かなくなると学年会で話が出たため、1コマ目は、2クラス合同で視聴覚室、2コマ目は、各教室、生活班(男女一緒混合)で行なうことになり、WYSH教育の基本からずれてしまった。/・体育館で学年一斉での実施となったため、テーブルクロス・花・ぬいぐるみ等の飾りつけができなかった。/遮光が可能で使える教室が少ない。今年は図書館を使いましたが、カーテンが薄かったので、十分光を遮ることができませんでした。/(・時間の設定・他の職員への説明・4月当初の計画にはいっていなかった・ビデオ作成)11/20 研究発表のため、職員全体が忙しく、3年生の計画に入れこむのに苦労した。12/20 までに終了させることに3年生は、受験校選び願書提出と日程が重なり3学期まで終了だったら2月頃に実施できて時間的にもゆとりがあったのではと思った。/今回1時間目は保健体育の時間に保体教諭2時間目はそれぞれの担任の教科の時間に行ったため時間が比較的取りやすかったと思います。そのため1時間目と2時間目に少し日数がかかります。これを2時間つづきでとると、時間確保が難しいと思います/・学年末の忙しい時期だったが思いきって実施してよかった。/・行事が続き予定が大幅にずれてしまい、実施したのが12月になった。/WYSH教育への参加決定が研修会直前だったため、2コマ連続して授業時間をとることがなかなか難しく、他行事とのかねあいなどを考えると、年間指導計画にきちんと位置づけ、万全な状態で臨むべきだったと反省している。そのため12月までにどうしてもオリジナルビデオやグループワークを取り入れた授業に至らなかった。(次年度は十分な準備をしてからのぞもうと思っております。)/・授業時間の確保/・時間の確保が難しく保健体育の授業時間で行った。/事前や事後の調査の時間がなかなか取れない。3学年の先生方も多忙で大変でした。/・実施時期が研修の後なので、二学期以降、限られてくる。二学期は、行事がめじろおしなので、WYSH教育をどの位置にもっていくか、毎回検討するところが悩ましい。/3年生の授業を9~12月に入れるのは予定していたので実施できたが、打ち合わせる3学年の職員は、進路相談が間近に迫っているため、事前打ち合わせ時間を十分に取ったり、事後の反省アンケート、記入等の時間の確保が難しかった。/・時間が不足した。

② グループワークを行う上での困難(21校:20.8%)

代表例:・テーマによっては、VTR、グループワークの内容に反映させるのが難しい場合もあると感じた/2時間目のグループワークで話し合いをもった時に司会者がうまくリード出来なかったようです。また まだ自分の将来に対して夢や希望 何になりたいのかはきりわからない者も多く話し合いがうまくすすみませんでした/学年の教師の中で、模擬授業もし共通理解を図ったつもりであったが一部教師に苦手意識があり担任を主体とした学級でのグループワークの持ち方に少し差が出たように思われる。/・グループワークに生徒は慣れていないので周囲を気にして意見が出にくい様子だった。教師側も生徒の意見をどうひろいまとめていくか難しかった。/◆場所を変えたり、テーブルクロスをしたりすると興奮して落ち着かなくなると学年会で話が出たため、1コマ目は、2クラス合同で視聴覚室、2コマ目は、各教室、生活班(男女一緒混合)で行なうことになり、WYSH教育の基本からずれてしまった。4クラス中、3クラスは支障なく行なえたが、1クラスは互いを気に気にしてか、グループワークがなかなか進まなかった。最終的には他クラス同様和気藹々としたので良かったが、クラスの人間関係によってはアイスブレイキングは必要だと思った。/予防方法についてのグループワークで、各班で話し合った、方法を代表者に発表してもらおうと思って、順番に当てていったところ、発表者がとても恥ずかしがって... そこで、ようやく気がついて、授業者が各班の話し合いをまとめた紙をも

って（授業者が）紹介する。という形で発表しました。もっと早く気がつけばよかった。と反省。/・1コマ目の時、グループで座っていたので、私語が出てしまった。1コマ目の時は、1人用机の方が良いかもしれないと思いました。・グループワークの時、自分で30段階を記入する時、自分だけの記入がきちんとできないまま、グループに入ってしまった感があります。/・課題提供型グループワークで提示した活動ノートへの記入を待たためにならかなり時間を要してしまいました。活動シートは班単位でもよかったのかどうか（最初個々に考えさせた）・「性感染症にかからないようにするためにはどうしたらいいだろう」を考えさせるときに、直接的な予防法が多かったので、つい「もっと他にあるのでは」等言ってしまった。・男女別のグループのテーブル配置で、最初の学級では、女子を前にしてしまいましたので女子が何だかやりにくそうという雰囲気だったので以後、前列男子、後列女子とした。/・本校の場合、生徒数が圧倒的に少なく、互いの意見を話し合う中で、自分の考えを再確認するという場面が作れないので、かわいそうだなと感じました。“せっかくこれだけの資料があるのにもったいない” 気もしました。/・その日の2時間つづきの授業の中で2時限目のグループワークへのつながりをずい分悩みました。/生徒の意見をグループワークで出すということについて「出たものをどうまとめればよいか分らない」（担任意見）ので、グループワークは話し合いの末、今回は見送りました。（年代は40代後半～50代の担任）又、夢へつなげるところにも無理があるので、担任は解説を… 这样一个理由で夢のある生き方が大切だからこれから夢についてグループワークをします。という解説（とにかく語ってしまいました。）/・何をテーマに取り上げるのか、ワーク、話し合い活動の授業を考える時、色々考えた。/生徒指導上問題ある生徒が、グループワークで、はずかしかったのか、本当に楽しい未来が想像できないのか、ネガティブな記入だったのが気になりました。/・生徒のグループワークに対し、それに応えるメッセージ、又、事例を生み出すのが、大変だった。/・転動してきたばかりで、子どもたちの実態をつかみきれていなかった為、グループワークやゲーム中、メンバーによって、失敗だったな… と思うグループ分けになってしまった。（保健委員の生徒にグループ分けをしてもらったのも失敗… ?）/・男子の一つのグループで照れ（?）から十分に交流できないところがあった。/・生徒が将来の夢でキャバクラで働きたいとか〇〇したいなどと書いてありどうすればよいか困った/班によってはしらけたり、ふざけたりしていた/一部で恥しがつてキチンと話せない生徒がいた。/・20年後を考えてもらったが、現在の社会状況から、生徒にも将来の不安が強く、「生きていないかも」「死んでいるかも」「結婚できないかも」といった声が多かった。/・質問の与え方にも問題があると思うが、特に男子がみんなの前で自分の夢を語れない… ということにおどろいた。女子は、とても活発だったので、その差におどろいた。

③ 授業構成上での困難(19校:18.8%)

代表例：時間が足りない(最初の指導部分を省いても、エンディングのムービーを流すと時間をオーバーする)/”夢”→”自分の人生設計”のつながり(展開)上手に出来ませんでした。”つながり”をどうするのかと考えておけばよかったと反省しています。/・時間の余裕や配分の難しさ・事前事後指導を明確にできるともっと良いものになる。/グループの形態で主要講義を行ったので、ややざわめいてしまった /この授業を始める前の段階で、HIV エイズについて、きちんと時間を取って教えておく必要がある。HIV エイズなど性感染症については、2月頃保健で学習するので復習となります。/8月のWYSHの研修会を受けてから、パワーポイント教材が送られて来るため、性教育を開始する時期が遅くなる。文化祭などの行事・運動会もあり、2学期は本当に忙しくなる。1回目のアンケートから、授業までの間が、すごく長い期間空いてしまうので、意義づけがうまいかかない。

1 学期より開始は無理でしょうか。/また 1 時間目の性感染症やエイズ 10 代の性の問題から 2 時間目のタイトル将来への夢、希望へとつなげるのがしんどかったです。多少無理があったように思います/ぬいぐるみを投げ合う、ひっぱって破損する、プロジェクターで影絵をする、etc と本校の” 人の話をじっくり聴けない” という短所がパワーポイントを使用しての講義にもかかわらずいくつかのクラスで見られた。/少しやんちゃな生徒がてれくさいのか、まじめにグループワークをしなかったり、教師からのメッセージ中にしゃべったりすることがあったので、授業の進行も遅れることがあった。/2 時間続けて授業したが予防教育(性感染症の実態や知識)から希望教育(丁寧な人間関係)への流れ(つなぎ方)がむずかしかった。/最初、自分のしたい内容でなかったのがやりにくかったが、進めていくうちに、慣れてきた。・パワーポイントの流れでつなぎがわかりにくいところがあった。(内容がとんでいるように思えたが...) エイズから中絶に移るところ/困ったわけではないが、ダイヤモンドランキングの前にビデオを見たので、ランキングがほとんど模範解答になり男女間の格差が見えなくなった。また、男子の率直な意見が出にくく意外性が乏しくなったように思う。/身近な話題などで興味・関心が高まればという思いに反し、好きな俳優やドラマ...という感情が出てしまった。/一部の男子が活発に意見を出してくれたのだが、話が脱線気味になり、修正するのに苦労した。/男女別に行うため、クラス分けの単位(1クラスあたり的人数)に困った。多すぎても少なすぎても...と悩んだ。/授業の進め方について。(T1とT2の役割分担)・エイズ・性感染症から将来の生きへつなげるという点にワンクッションほしい。・体育館で学年一斉での実施となったため、テーブルクロス・花・ぬいぐるみ等の飾りつけができなかった。/時間配分/最後まで男女一斉の授業にするべきではないかと悩んだ。(異性からの思いや考えを聞く必要はあるべきなので)しかし、男女一斉にすると意見が出ないという考えから、結果的に男子と女子を分けて授業した。上記のジレンマがある。/エイズや性感染症について予備知識がほとんどない生徒(保健科でまだあまり触れていなかった)に主要講義 DVD の内容はインパクトがあったが、自尊感情を高めるところまで授業を流していくのがかなり厳しいと感じた。・オリジナルビデオだけで、自尊感情を高める効果をかなり期待したが...どうだったか...? 難しさを感じた。

④ 学校の協力体制・管理職・他教員の理解不足(18校:17.8%)

代表例:・学校での組織が成り立っていなかったと思う。健康教育部会が中心となるのか、3年生の教師が中心となるのか、そして、その中で誰が授業をするのか...など4月当初にはっきりと決まっていれば、もう少しスムーズに準備ができていたと思う。また、それに関連して、負担がかかることをおそれて、WYSH 教育をしない方がいいという意見や非協力的になる教師もいたことは困った。学年会や朝の打ちあわせでも幾度かめめたので...・4月に健康教育部のメンバーで残ったのは、私一人となり、いっきに「昨年の活動はごく一部の人の活動だった」とか「異様だった」とか言う職員も出てきて、授業を誰がするのかを決める時も、「中西さん1人でやればいい」という意見まで出た。せっかく素晴らしい授業をしんどいからと言って養護教諭一人にまかせようという考えにショックを受けたりもした。良い授業をするには準備にも打ち合わせにも時間がかかってしまうのは仕方ないことだけど、協力が面倒でも足を引っ張るようなことはやめてほしかった。教職員の協力、理解がホント難しかった。・昨年度の授業の結果、職員間の評価はそんなに悪くなかったはずなのに、本年度の取組では、学年全体、学校全体の盛り上がり欠けていた感じがする。/ポスターは、結局貼りませんでした。管理職に相談したところ、授業で学んでもいないのに、いきなり貼ってると、子どもたちは、驚いてしまい、その対応が全職員十分できないであろうということで、貼ることを中止しました。/・校

内研修で職員にWYSH教育の特徴など伝えることは出来たが他校の実践を参考に一人で考えることが多かった。3年生の担任は進路のことや生徒指導で忙しく十分に内容を検討することが出来なかった。校内での協力者を増やしていくこと、学校全体としての取り組みにすることが課題である。/・授業担当者の負担が大きくなり大変であった。(年間指導計画にしっかり位置付け、年度当初からチームで取り組むべきであった)/・学校内でどのように広げていくか?1年目の今年は、私がほとんど一人で準備等したので、次年度へ、つなげていきたい。/・保護者へのお知らせプリントの配布を阻止されたこと。(校長先生にいく前に、学年の先生方にストップをかけられました)授業で伝える内容として、「性関係を焦らないこと」という一文と、差し出し名が「3学年」というのに、ひっきり間もたれて出せませんでした。・グループワークの時に「どんなことをいいますか、わからない」という理由から、学年の先生方が、グループにはりついたら、こわい顔で授業をみていました。でも、生徒たちは、いつもなら萎縮し、いいたいこともいえないのですが、この時は、きちんと楽しそうにワークができていたのでよかったですと思います。/・まだまだ学校全体の取り組みになっていないと感じる/①最初から落ちついていていたわけではないが、生徒指導上の問題が毎日あり、打ち合せ等が密にできなかったのと、メッセージビデオをつくる上で先生方にうまくイメージが伝わらず、作ってからイメージが伝わった。今年はず私がつくるので、仕方なかったとは思いますが。⑤来年も希望したいが、学校全体の理解と協力が得られるか心配。/・学年団の先生をまきこんで、みんなで作ることができず、養護教諭の私個人のやりたいこと(WYSH教育)という感じになってしまった。色々と問題行動の多い学年で、連日深夜まで会議や対応をされている学年だったので、協力をたのむことは、心苦しかった。1人で全部行うのは、本当に苦しかった。/・私が講義しようとした時、パソコン(ノート)はなし、パワーポイントは入っていない。学校に整備されていないところから始まる。働きかけをしながら、何とか購入予定まで来たがくじけそうになったとき、木原先生の熱意を感じ、やり直すことができた。・管理職からも冷たい視線を浴び1人で最後は切り抜けた気もする。/・養護の先生にすべてまかせてしまった。/・教員間で意識統一が十分でなかった/・今年夏の研修を受けたのが、私一人でした。学んできたことを一人で学年に伝えることを考えると不安と苦勞が先に出てしまい、困りました。しかし養護教諭の強いサポートがあり、無事伝えることができました。/・職員の意識の差がはっきりした。/・教師のやる気、団結、協力を求めるのにかなりの努力が必要。動き出すと、やりがいも、手応えもあり、次につながるのだが…。/いざ「自分が授業をする!!」という決意がないと、前向きに取り組みにくい。(教師側の意識の問題)/・担任の先生の負担が大きかった。もう少し分担すれば良かったのだろうが、教員間の認識に温度差があり、また担任の先生の思いが強かったこともあり、ほとんど一人で抱えていた。/学年の教師の中で、模擬授業もし共通理解を図ったつもりであったが一部教師に苦手意識があり担任を主体とした学級でのグループワークの持ち方に少し差が出たように思われる。

⑤ 生徒への対応(フォロー)困難(18校:17.8%)

代表例:・転入生が直前に入ってきてビデオも作成済みで困りましたが、なんと授業の日は休んでいました。出席したら、説明するつもりでした。/・発達段階がそこまで到達していない生徒への知識面をどうおぎなうか?/・言葉がむずかしものがあるので、生徒が十分に理解できたか、不安である。/・伝えたい生徒が休んでしまったケースの対策をどうするか/・性についての個人差が大きく、それに触れたくないと考えている生徒が全体のムードを止めることがあった。/◆2コマ目を休んでしまった生徒へのフォローを、どう行なうか。(個別指導で対応していく予定)◆気持ちを閉ざしてしまっている生徒への対応。(授業後に保健室で出会ったときに、ゆっくり話げできた。乗り気でないような態度では

あったが、気持ちは授業に参加していたことがわかった。) /・リスクの高い生徒に限って授業が受けられない。(不登校・問題行動等) /説明用のPPTが少し難しかったようで、生徒の中には「話が難しくよく分からなかった」という感想もあった。性行為のイメージが具体的でない生徒にとって「自分を大切に作る行動」がどんなことかが伝わりにくかった。指導する集団の実態に合わせてPPTの中からどこをどのように伝えていくか自分がしっかり研究しなければならないと思った。 /・性感染症や性に対して、全体的に知識不足であると感じた。 /ぜひ聞かせたい!と思う心配な生徒はこの時期学校に登校しておらず、以前から個別に話したこともありましたが、聞いてみんなで考えてほしかったと思いました。 /・相談室登校の子や不登校の子が一部のみ授業を受けたり、アンケートのみ(1回目となぜか2回目ちょうど登校)などがいた。 /授業開始前に性交渉をスタートさせてしまっている生徒が、おもしろおかしく、体験談を語ってしまっており、それに追従した生徒が授業の雰囲気をごわしてしまったこと。(メール、ブログなどを媒体としている生徒もいる)自分自身の問題として深く考えさせたかったが、興味が快楽の方に向ってしまい(現実逃避もあるが)、重ねて個別指導を行わなければならない重要性を改めて感じた。 /感想の中に1人、「授業をきいていて、とても恐くなった。人間不信になりそうです。」という旨のことを書いていた生徒がいた。この生徒に対して何かフォローをしなくては...と思っているうちに、冬休みに入ってしまった。卒業前に、ちゃんと話しをしてみたいと思います。 /・知識定着を図るための工夫(言葉の意味理解に困難さを抱える子供たち)(情報量が少ない子供たち)への支援として/性感染症やエイズ予防のため、ずっと性行為をしてはいけないと思った生徒がいた。「子どもが欲しい時、感染を恐れて性行為をしないのでは、子どもが産めなくなってしまう」という感想があり、フォローする時間がなかった。 /性を受けとめられない生徒にどう対応してよいのか。(顔が上げられないなど) /生徒の反応への応答の仕方/やはり過激発言に対して、こちらは受け入れることができるが、同じ立場にいる生徒同志の中に少し差があるので、その際のフォローについて、検討していきたい。

⑥ 教材(主にメッセージビデオ)作成への困難(17校:16.8%)

代表例:・メッセージ(スライド)が上手に作れない。登場人物が片寄ってしまう(写真を募集するため、応募してくれる子だけ)(特定の生徒、先生) /・オリジナルビデオの作成が大変だった。 /・オリジナルビデオだけで、自尊感情を高める効果をかなり期待したが...どうだったか...?難しさを感じた。 /正直、教材研究、準備には、時間と労力をかけました。グループワークの内容、生きることを考える映像を考えるのが大変でしたが、そのおかげで生徒たちの良い表情が見れたような気がします。 /・ビデオ作成が大変だった特にメールと人と人とのコミュニケーションの違いのビデオは内容の選定とやり方(結局テレビをビデオで撮りました)が悩みました・最後のメッセージビデオを作るために生徒に写真を募集したら、1枚も集まらなかったのがショックでした(安田生命のマイハピネス写真と過去の生徒の写真を使いました) / *ビデオ作成→個人では、技術パソコン操作等のスキルもあり苦勞しました。とにかく作りましたが(5~)自分で納得いくものではありませんでした。 /・資料、教材探しに、困りました。 /・メッセージビデオの作成ができなかったこと。(卒業に向けて作成中で、ぜひ保護者にも見てもらいたいと考えています。) ※困った点というより反省点です。 /先生方に写真を提出してもらうこと、曲の選択がとても苦勞しました。 /自分たちだけでは、ここまでの資料(パワーポイント・ビデオ等)を準備することはむずかしい/パワーポイントを使ったことがなかったのが、メッセージビデオ作成に手間取りました。 /最後のメッセージビデオをどうしても教室内のTVのために、小さかったのが残念でした。 /・毎年、心の残るメッセージビデオを作ること。 /・人と人とのつながりビデオ等編集に大変時間がかかった。(技術的な問題) /メッ

セージビデオを作るにあたって、技術的なことがわかる人が校内にいなかったのではいろんな人を巻きこんで大変だった。/・メッセージビデオの作成にあたり、生徒から写真を募集したが、体裁を気にして、あまり集まらず、職員の家族写真等を使った。・地デジTVから録画したDVDが編集できず、一番四苦八苦し。何とかVTRに落とせたが時代が変化しこういう点でも教材作りに知識が必要だと思った。/・メッセージビデオの作成で、中2の時の体育祭で撮影したクラスの集合写真を見て、アスペルガー症候群の男子生徒が、「肖像権の侵害だ!」と泣いてキレた。(私に...)その体育祭で、辛い思いをしたらしく、その思いがフラッシュバックしてしまっただけ..。

⑦ 準備時間の確保(12校:11.9%)

代表例:正直、教材研究、準備には、時間と労力をかけました。/・ほとんど一人で行なったため、準備に非常に時間がかかった。/授業内容を十分検討する時間の不足/体制を整える時間的余裕がなかったのが残念だった。/・指導者側の時間がなく、互いに思いを練り合わせることができなかつたことが心残りだった。/・事前打ち合わせの時間がなかなか確保できず、全員の思いを一つの方向にもっていくことが難しかった。(しかし、結果的には、どのクラスもねらい通りの授業ができた。先生方一人ひとりの力量や熱い思いがあつたことだと思う。)/・学担との打ち合わせ時間がなかなか取れなかつた。/パソコン等の機器を含め、事前の準備に手がかかった。事前学習会の必要がある。ITで行うためしっかりした打ち合わせが必要。/・3年の12月という忙しい時期だったため授業の準備が十分にできなかった。/打ち合わせの時間があまりとれなかつた/事前打ち合わせのための準備が大変でした。/・ほとんど一人で行なったため、準備に非常に時間がかかった。

(1) 指導案づくりでは、2時間の枠にコンパクトにまとめるための検討(グループワークの発表方法の工夫、ゲームにあう曲の選定、プレゼンやゲームの配置等)に時間を要した(2) 昨年度大変だった部屋の選定から、教材の準備(フォトストーリーの作成)、ぬいぐるみやテーブルクロスや鉢物やCDの購入、遮眼子を利用したO×棒やゲームに使うカード作り、質問ボックスなどは、使い回せたが、視聴覚機器(パワーポイント、CDラジカセ、ビデオデッキ、スクリーン)の準備と設営など、職員の協力は得られたものの、ぎりぎりまでかかった。

⑧ 教師の知識・経験不足(12校:11.9%)

代表例:・パワーポイントの教材で、性感染症と中絶の年次推移について、全体的に人数が減っているところをどう説明したらいいのか困った。減っていることで、生徒に安心感を与えてしまいそうなので、減っている理由を説明したいと思ったが、理由がわからず困った。/指導する集団の実態に合わせてPPTの中からどこをどのように伝えていくか自分がしっかり研究しなければならないと思った。/主要教材のパワーポイントに原稿がついてないので、ところどころ解説する時、疑問があつた。例えば、性感染症の動向のグラフで「若者の10人に1人が感染していると言われます」とあるが、「性経験者のうちで」と言うのを抜かしそうになった。/性感染症やエイズ予防のため、ずっと性行為をしてはいけないと思った生徒がいた。「子どもが欲しい時、感染を恐れて性行為をしないのでは、子どもが産めなくなってしまう」という感想があり、フォローする時間がなかつた。/① 予防方法についてのグループワークで、各班で話し合った、方法を代表者に発表してもらおうと思って、順番に当てていったところ、発表者がとても恥ずかしがつて...そこで、ようやく気がついて、授業者が各班の話し合いをまとめた紙をもって(授業者が)紹介する。という形で発表しました。もっと早く気がつければよかった。と反省。②感想の中に1人、「授業をきいていて、とても恐くなった。人間不信になりそうです。」という旨のこと